

第2節 消防活動の現況

～精強な消防部隊とその活動～

- 火災出場件数は7,434件。1件の火災出場において、平均して消防車両約9台、消防職員約37人が出場
- 鉄道沿線火災やホテル火災が発生したことから、消防隊による避難誘導が前年比282人増加

1 火災出場の状況

(1) 出場件数(車両数)・出場人員、活動時間

平成29年中の消防隊の火災出場件数(誤報等を含む)は7,434件、出場した消防車両等は66,664台、出場人員は277,723人

でした。平均すると1件の火災に対して消防車両等約9台、消防職員約37人が出場しています。(図表1-2-1及び図表1-2-2)

■ 図表1-2-1 出場件数(車両数)・出場人員、活動時間の状況

	平成29年	前年比
出場件数(車両数)	7,434件(66,664台)	42件(▲1,969台) ▲
出場人員	277,723人	7,631人
活動時間	平均1時間07分	▲3分

■ 図表1-2-2 主な消防車両等の火災出場状況

区分	出場延べ数	区分	出場延べ数
ポンプ車	40,339台	指揮隊車	6,800台
化学車	3,384台	はしご車	5,305台
救助車	4,154台	消防ヘリコプター	51機

(2) 救助・避難誘導人員

平成29年中の救助人員は165人で前年比38人増加しています。鉄道沿線火災やホテル火災など、多数の避難者が

発生する火災が発生したことから、避難誘導人員は282人増加しています。

(図表1-2-3)

■ 図表1-2-3 火災における救助人員・誘導人員

	平成29年	前年比
消防隊による救助	165人	38人
消防隊による避難誘導	395人	282人
活動時間	平均1時間07分	▲3分

2 救助活動の状況

(1) 出場件数(車両数)・出場人員、活動時間

平成29年中の救助活動件数は21,984件で前年比4件増加しましたが、救助人員・出場隊数は減少しました。(図表1-2-4)

■ 図表1-2-4 出場件数(車両数)・人員、活動時間の状況

年	平成29年	前年比
出場件数(車両数)	21,984件(69,462台)	4件(▲576台)
救助人員	18,568人	▲390人
出場人員(DMAT※含む)	281,640人	2,896人

※専門的なトレーニングを受けた医師や看護師が医療資器材を携えて災害現場へ赴き、その場で救命処置等を行う災害医療派遣チーム。

(2) 救助件数・人員

平成29年中の救助件数及び救助人員の事故種別は図表1-2-5及び図表1-2-6のとおりです。「建物・工作物」、「交通」の区分の合計が9割以上を占めています。

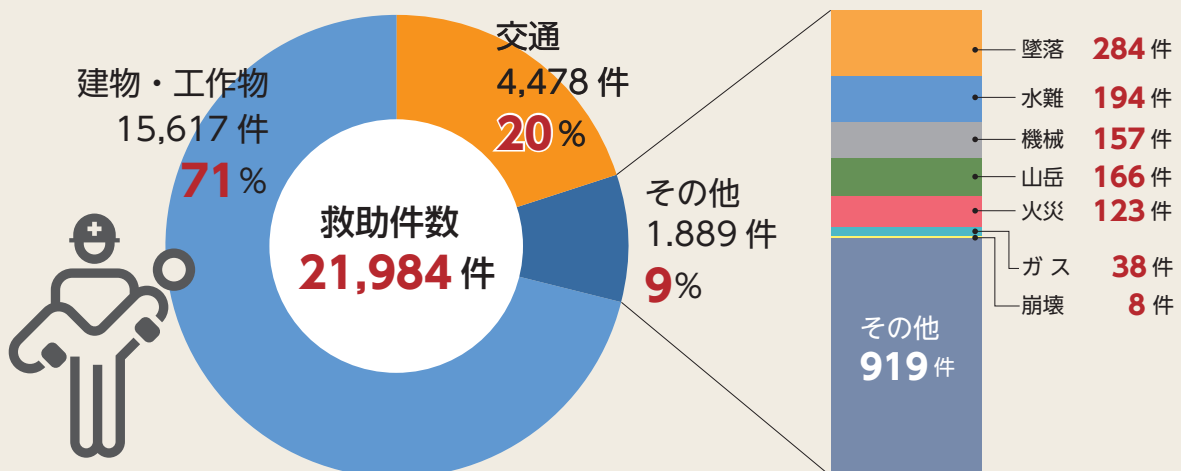
建物・工作物とは、建物等における事故のことをいいます。救急要請の119番通報を受け、救急隊が出場したものの、右記の(例)のような場合は建物・工作物の救助

活動に分類されるため、件数が多くなっています。

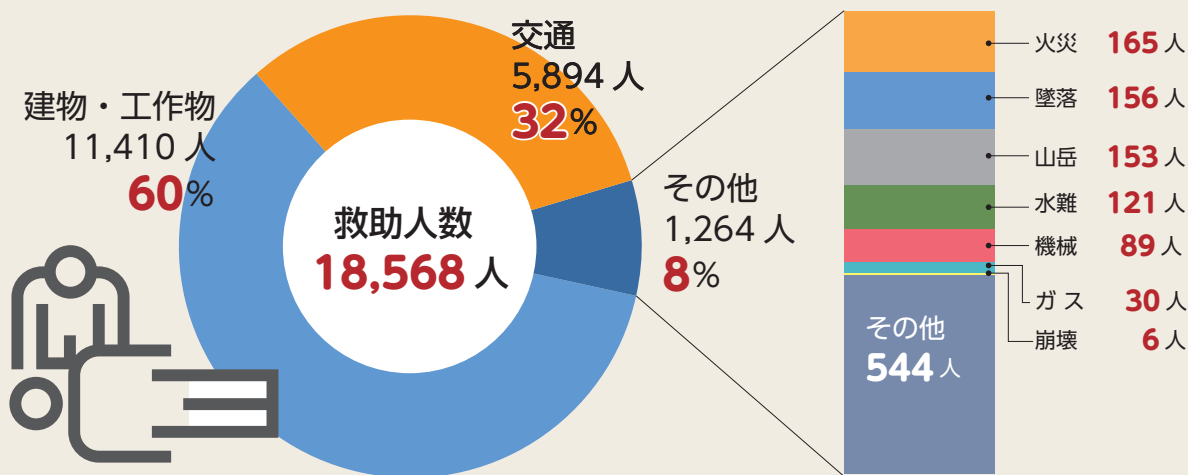
(例)

- ・玄関が施錠されているなど、消防隊による破壊等を行わなければ、傷病者に接触できない場合
- ・搬送路が狭あいであるなど、救急隊3名のみでは救急現場から救急車までの搬送が困難であり、消防隊の応援が必要な場合

■ 図表1-2-5 救助件数の事故種別状況



■ 図表1-2-6 救助人員の事故種別



3 危険排除等の状況

危険排除等とは、危険物や毒劇物等の化学物質などが流出した場合に、火災の発生防止及び人的被害の軽減を図るための必要な措置を行うことや、自然現象による危険を除去するなどの消防活動のことです。活動内容は「危険排除」、「応急措置」、「警戒」等に分けられます。平

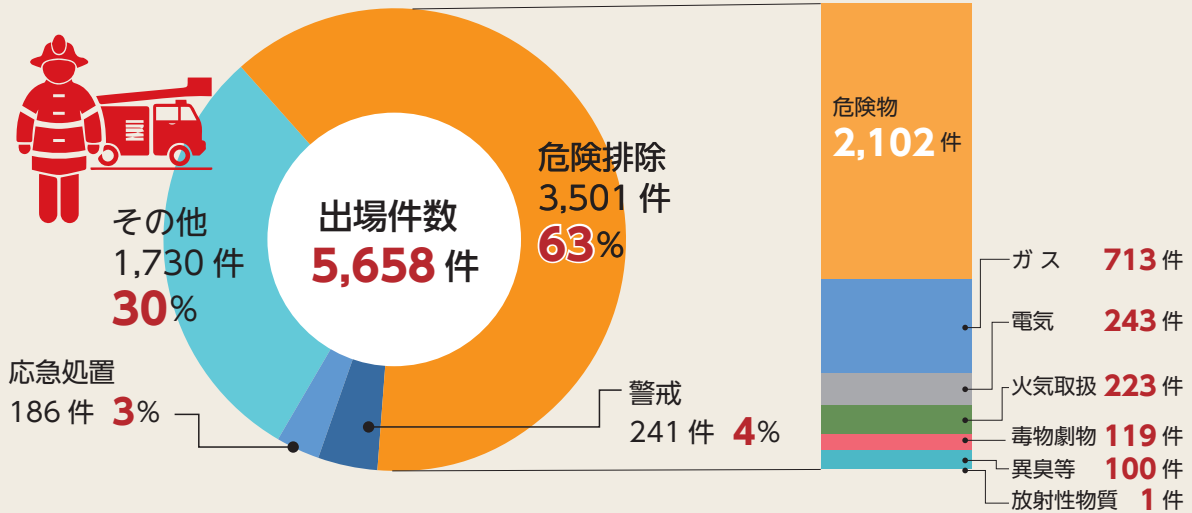
成29年中の危険排除等の活動については図表1-2-7及び図表1-2-8のとおりです。

交通事故においてガソリン等が流出した場合が「危険排除」に該当するため、件数が多くなっています。

■ 図表1-2-7 危険排除等の出場件数(車両数)・出場人員の状況

	平成29年	前年比
出場件数(車両数)	5,658件(13,921台)	▲115件(▲334台)
出場人員	61,663人	▲2,762人

■ 図表1-2-8 活動内容別出場件数の内訳

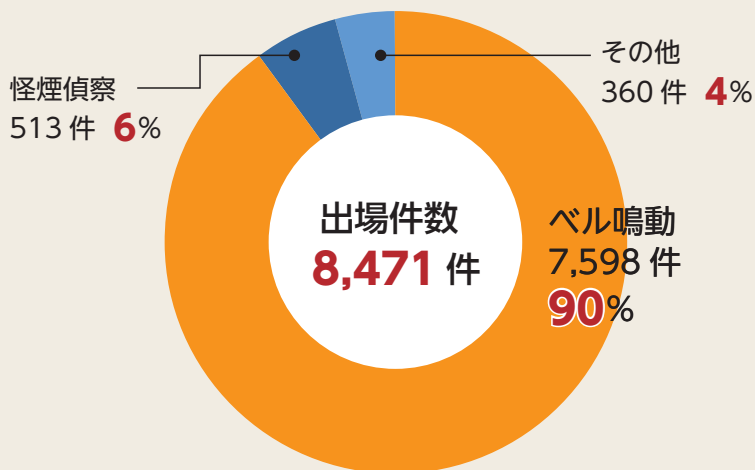


4 緊急確認の状況

緊急確認とは、火災と紛らわしい火煙等または自動火災報知設備等が作動（ベル鳴動）した旨の通報があった場合、緊急に現場を確認する消防活動のことで

す。平成 29 年中の区分別の内訳は図表 1-2-9 のとおりです。「ベル鳴動」が 9 割を占めています。（図表 1-2-9）

■ 図表1-2-9 緊急確認区分別の内訳



■ 図表1-2-10 緊急確認の出場件数(車両数)・出場人員の状況

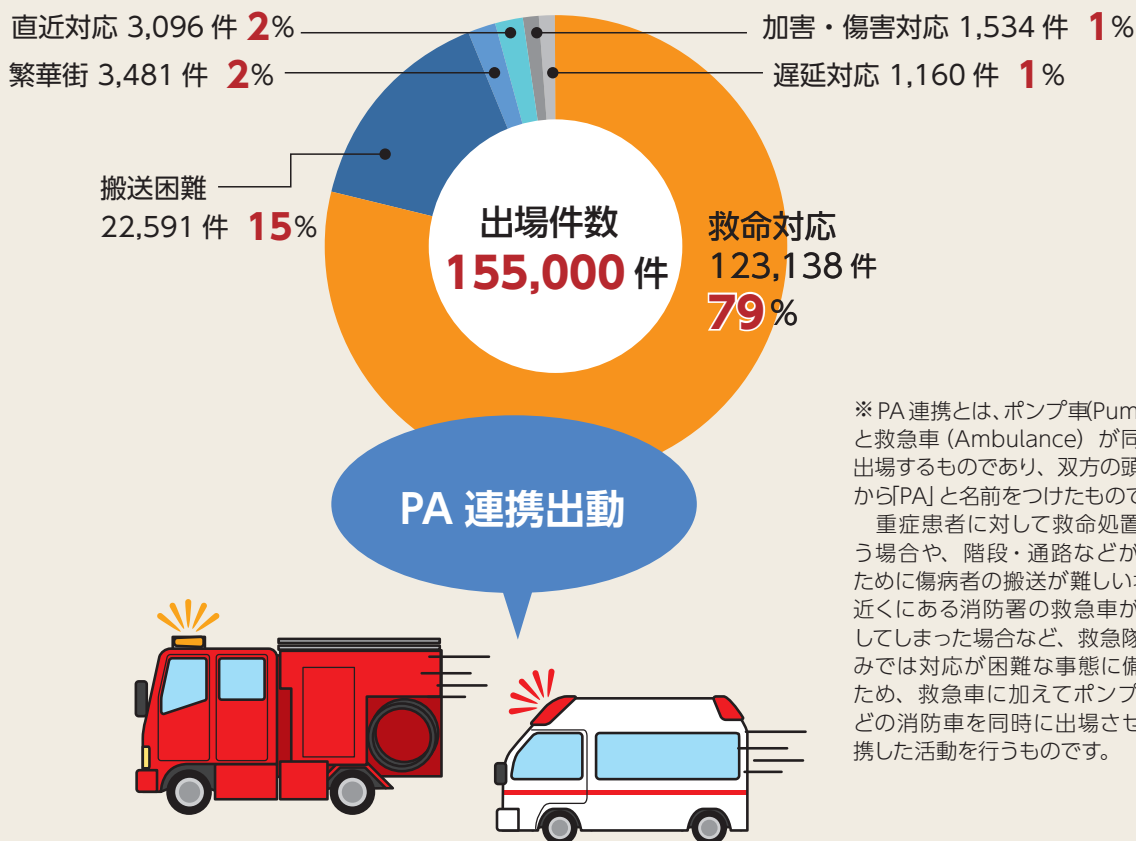
	平成 29 年	前年比
出場件数(車両数)	8,471 件 (13,838 台)	540 件 (632 台)
出場人員	64,762 人	2,720 人

5 救護活動(PA連携)の状況

救護活動(PA連携)^{*}とは、必要に応じてポンプ小隊等が救急現場に出場し、救急小隊と連携して傷病者の救出、救護処置を行う活動のことです。

救護活動(PA連携)の区分をみると、「救命」、「搬送困難」の順となっています。
(図表1-2-11)

■ 図表1-2-11 PA連携区分別の内訳



^{*} PA 連携とは、ポンプ車(Pumper)と救急車(Ambulance)が同時に出場するものであり、双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。
重症患者に対して救命処置を行う場合や、階段・通路などが狭いため傷病者の搬送が難しい場合、近くにある消防署の救急車が出場してしまった場合など、救急隊員のみでは対応が困難な事態に備えるため、救急車に加えてポンプ車などの消防車を同時に出場させ、連携した活動を行うものです。

■ 図表1-2-12 PA連携出場件数(車両数)

	平成 29 年	前年比
出場件数(車両数)	155,000 件 (156,142 台)	▲ 3,467 件 (▲ 3,826 台)